

委員No.	意見
1	<p>子育て施策が概ね良い自己評価であり、充実していることが捉えられた。都市ブランドの創出施策や交流の促進施策が伸び悩んでいるが、コロナの影響もあるのでやむを得ないと思う。しかしこんな時だからこそ全ての基本目標のそれぞれの施策において、オンラインを活用したり人通りが少ないことを利用して施設の新設・改修を行う等、思い切った施策を打ち出すことも出来るのではないかと、例えば南国徳島の夜を楽しむ、ソーラー発電によるLEDLightが徳島市中心街(新町川公園や各橋)に灯る、週末に特化した眉山ナイトツアー、水上タクシーの夜間ライトアップなど大変ユニークだと思う。</p>
2	<p>出口が見えそうで見えないコロナ禍にあって、様々な工夫を凝らして施策を進めておられることに敬意を表します。</p> <p>ただ、いつまでも「コロナ」を言い訳にすることはできず、「コロナの影響でできなかった」から「方向性や手法を転換し、このような結果が生まれた」という評価に早く切り替えるべきではないでしょうか。コロナ禍の「課題」を発見する時期は過ぎ、コロナ社会の中でできることを「実行」することが必要であると考えます。</p> <p>それが、SDGs未来都市として、地域社会の持続可能なコミュニティづくりの基礎であると思えます。</p>
3	<p>・基本目標3「徳島市の強みを生かした、にぎわいと活気のあるまちの実現」について、コロナ禍における対策が急務である。コロナ禍における地方回帰の潮流があるものの、移住や交流人口の獲得は他自治体との競争環境にあり、差別化が必要と思われる。</p> <p>・戦略の内容とは別件となるが、各担当課による事業の評価(地方創生への効果及び今後の継続性)は、何らかの基準に基づいて行われているのだろうか。これらの評価結果は、外部評価の際にも重要な指標となる。できる限り担当課ごとに評価にバラツキが生じないよう、その妥当性をチェックする仕組みも必要と考える(例えばルーブリックを用いて評価を行うなど)。</p>
4	<p>徳島市での「まち」「ひと」「しごと」創生総合戦略について、様々な取り組みを行っていただいておりますが、それぞれ部分的な戦略となってしまっているように思う。やはり、行政が動くことによって、市民の動きが活性化され、官民連携の相乗効果が生まれて大きな渦となって徳島市全体の動きとなるような戦略であるべきである。そのためには、どんな徳島市にしたいのか、そうありたい未来を描き、徳島独自の目標を明確にして、そのグランドデザインに向かって全体で突き進めるような計画が必要であると思われる。</p>
5	<p>引き続きコロナ対応で大変かと思えます。事業によって新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業、受けなかった事業、対応できた事業、対応できなかった事業、様々ですが、各事業を左記の4区分に整理し、対応できた事業からノウハウを学び、市役所内、事業間で情報共有を図ることが重要かと思えます。</p> <p>様々な事業において、KPIが達成されていなくとも(成績不良でも)、構成するメニューが実施されていれば高い効果があったと判断されているもの(例えば「リノベーションまちづくり推進事業」)がある一方で、コロナ禍という障害の中でほぼKPIを達成しているのに効果がそれほどなかった(例えば「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進」と判断されているものもあり、評価基準が曖昧のように思えます。これに関して「説明資料」の3ページ目の下の【補足】で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮しているという説明文がありますが、結局のところ、事業担当者の判断(主観、経験)に一任されているように思われ、統一性、客観性に乏しい評価方法となっていると思います。評価はあくまでもKPIの達成度で行わなければなりませんから、例えばKPIについて目標値に対する実績値の割合(達成度、達成率)を算出して「コロナ禍であるから徳島市としては達成度0.90以上でA評価とする」というような、数量基準を設けてコロナ配慮の評価をしてはどうでしょうか。事業によっては当初設定したKPIでは全く事業評価できないという場合もありますが、それは欄に「コロナの影響大」を追加して該当すれば「○」をつけて対応します。第三者が評価する際、事業がコロナの影響を大きく受けたのかを知るために「KPIの達成理由」を読まなくて済みます(作業が楽)し、何年も経った後での事業再評価も容易かと思えます。</p>
6	<p>前年に続いて新型コロナウイルス感染症の影響があり、取組も対応していく必要がある中で目標達成に向けて進んでいると思う。</p>
7	
8	